

令和6年度おおたわらふくし共育研修会

学校と地域がつながるふくし共育 ～ヤングケアラーの視点から考える～

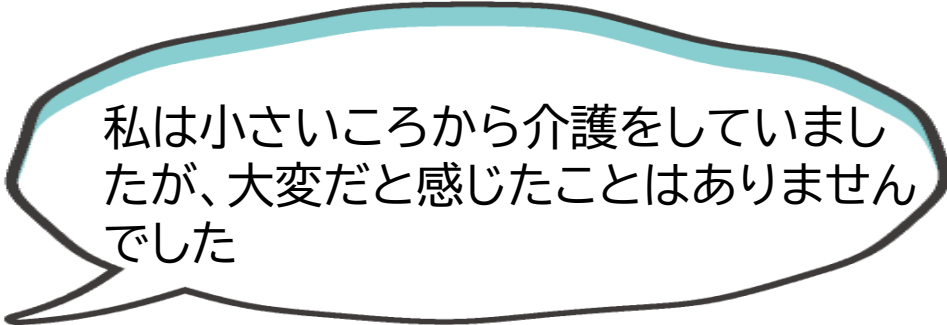
ヤングケアラーの問題は表面化されづらく、当事者自身の自覚がない、また「助けて」の声を出すことができない等、学校、地域として、ヤングケアラーをどう支えていくかが課題となっています。

今回の研修では、この課題について知り、考えるきっかけとなるように当事者の方とのパネルディスカッションを行いました。

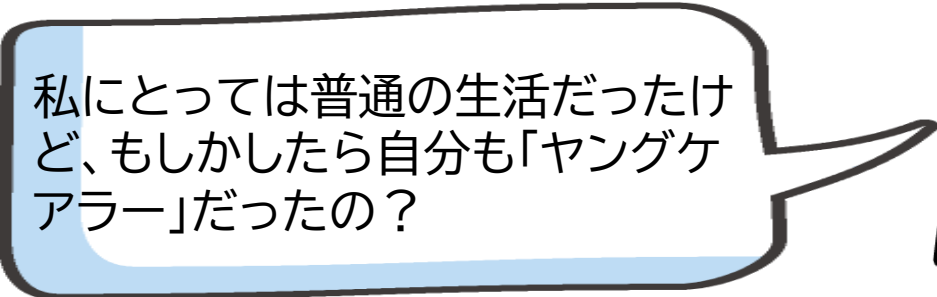
「ヤングケアラー」ってなに？

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子どものこと

と定義づけられていますが・・・
(出所:日本ケア連盟)



私は小さいころから介護をしていましたが、大変だと感じたことはありませんでした



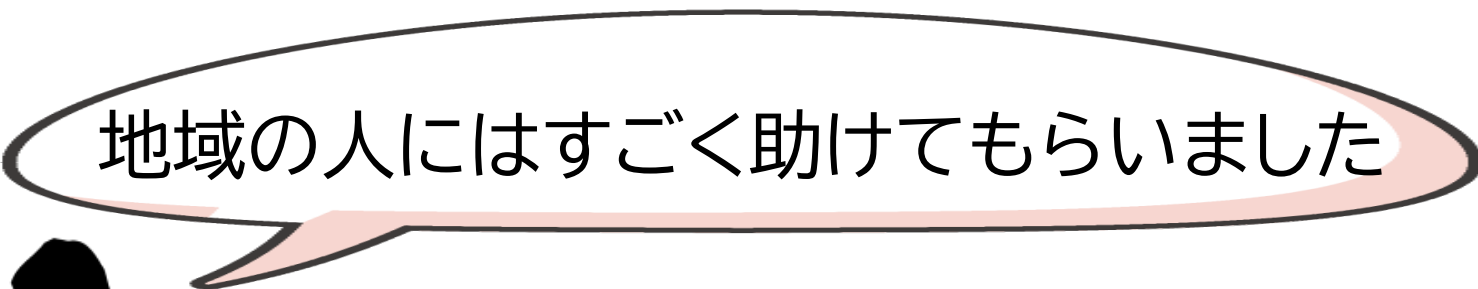
私にとっては普通の生活だったけど、もしかしたら自分も「ヤングケアラー」だったの？



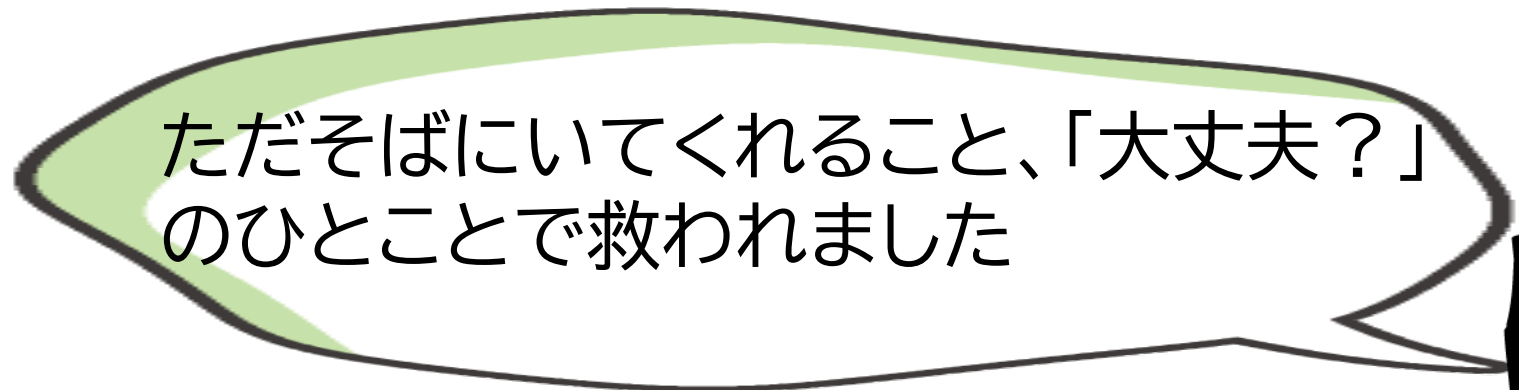
定義だけを見ると「大変そう」「気の毒」などマイナスなイメージを持ってしまうかもしれません。

しかし、当事者にとってはそれが当たり前の生活です。
決めつけや先入観で「かわいそうな人」と考えるのはやめましょう。

私たちにできること



地域の人にはすごく助けてもらいました



ただそばにいてくれること、「大丈夫？」
のひとことで救われました



まずは言葉を交わし、
その人のことを少しずつ知りましょう

研修会のようす①

ヤングケアラーを経験した方のお話を実際に聞いて、
より身近にこの課題について考えられるようになりました。

感想や、これからの地域づくりについて
考えを話している人もいました。



地域として何かできることはあるのかな？



孤立させない地域づくり
助けてといえる関係づくり
が必要になるね

研修会のようす②

これからのこと



「分からない」から始めて良い。

すべてのことには理由がある

ひとそれぞれの悩みや考え、
価値観がある

「分からない」から始めるために
一言でもいいから言葉を交わし、
その人を知ることが第一歩

育った環境は違うから、常識はひとそれぞれ

これからは、「助けて」と言い合える、
困っていたら誰かが駆けつけてくれる地域を目指しましょう